

平成 28 年(2016 年)版

Yomo Yomo

ホントに

体力なら

～10代のあなたに～

きもち

みかけは

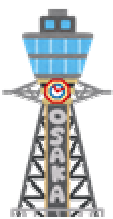
えんたく
『円卓』

イラン生まれ、大阪育ちの
直木賞受賞作家

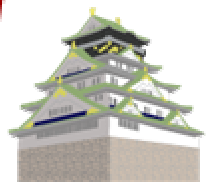
西 加奈子／著 文藝春秋 2011 年発行



こっことは「うるさいぼけ」が口癖の小学3年生。大阪の狭い団地に8人家族で住んでいる。家族の愛情を感じながらも、日常に不満をもち孤独にあこがれている。好きなことは、気になる言葉を「じゅうちょう」に書き写して想像をふくらませること！夏休みのある事件がきっかけで、心に変化がおきたこっこの成長を描く。



この本、ぜーんぶ大阪発！



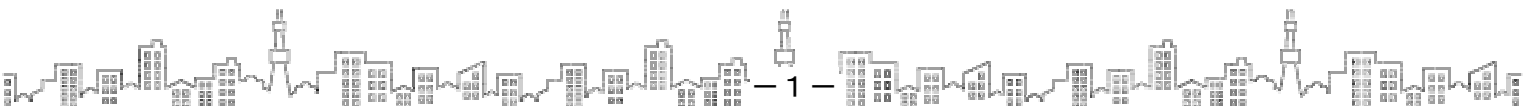
『偉大なる、しゅららぼん』

大阪出身の作家

まきめ まなぶ
万城目 学／著 集英社 2011 年発行



琵琶湖のほとりに住む日出家と棗家は「湖の民」として、それぞれに異なる特殊な力をもつ者が存在し、代々続く因縁の間柄。力を操る修行のために日出本家にやってきた涼介は、跡継ぎで変わり者の淡十郎に振り回されながら、現実離れした高校生活を送っていた。そこに突如訪れた両家存亡の危機。涼介たちは、この窮地を乗り越えられるのか。





『なりたい二人』

大阪出身の児童文学作家

今丈^{れいじょう}ヒロ子／作 PHP 研究所 2014 年発行

小学生の時、「つきあってるの？」と周りに言われてから、お互いを避けるようになった幼なじみの元原^{もととはら}ちえりと森脇^{もりわきたけよし}武儀は、現在中学1年生。ところが「将来の夢・自分のなりたい職業について」という課題で、ペアを組むことになってしまった。コンプレックスから、なりたいものを誰にも言う勇気がもてなかった2人の変化を応援したくなる本。



『じんべえざめ』

大阪出身の彫刻家

新宮^{しんぐう} 晋^{すすむ}／著 扶桑社 1991 年発行

地球上で一番大きな魚、じんべえざめ。ゆうゆうと泳ぐじんべえざめに寄り添い、一緒に泳ぐような気持ちになれる絵本です。現在、海遊館にいるじんべえざめは4代目だそうです。大阪にいる私たちは身近に観察できて、幸運ですね。



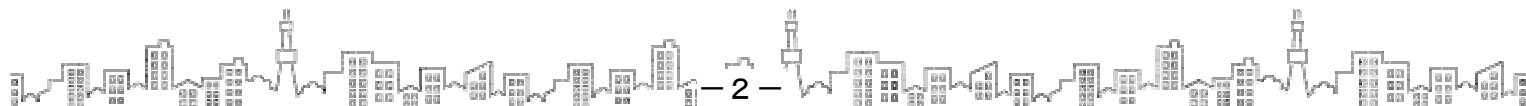
『エヴリシング・フロウズ』

大阪出身の
芥川賞受賞作家

津村^{つむらきくこ}記久子／著 文藝春秋 2014 年発行



中学3年生のヒロシは友人も少なく、女の子とも話せない。ある日クラスメートのヤザワが暴行されるのを目撃し、知恵をしばって助け出す。次々起こる問題に、誠実にできることをしようとするヒロシがかっこいい。彼をしだいに信頼していく友人たちも魅力的。彼らが駆け抜ける大阪の街、柔らかな大阪弁があふれる1年間の物語。



『21 世紀版少年少女古典文学館 19 雨月物語』



江戸時代の国学者・歌人・読本作者
大坂の人

佐藤さとる／〔訳〕 著
（＊原作：上田秋成『雨月物語』）
講談社 2010 年発行

時は天下太平の江戸時代。町が栄えるほどに闇夜は深さを増し、人々の心をとらえた。人と、人ならざるモノとの思いがけぬ出会いがあぶり出すのは、人間の愛憎や執着、欲望と悔恨。時に切なく時に恐ろしい奇怪な物語が、淡々と紡がれる。二百年以上の時を超えて読み継がれる怪奇文学は、いかが？

ガーッとって
ダーッとって
パーッとって

『大阪人の格言 苦しいときこそ笑わなアカン！』

大阪人コラムニスト

小杉なんぎん／著 徳間書店 2011 年発行

大阪人の独特なセンスがたっぷり詰まった 1 冊。辛いことや悲しいことがあったらこの本を開いてみよう！時に厳しい言葉もあるけれど、きっと元気になれる言葉が見つかるはず。大阪人の人情と思いやりがあふれていて、優しさを感じられるよ。

大阪生活が短い人でも、言葉の意味がちゃんと書かれているから安心してね！



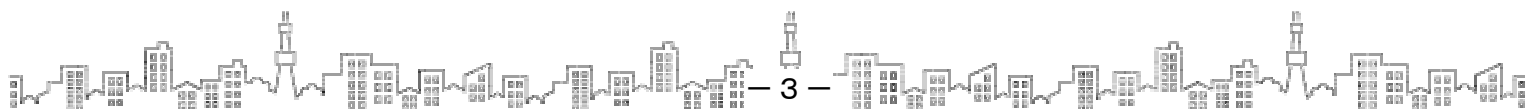
大阪のおばちゃん
にして法学者

『日本国憲法 大阪おばちゃん語訳』

谷口真由美／著 文藝春秋 2014 年発行

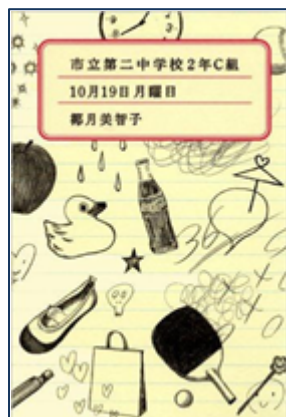


「大阪弁でしゃべるおばちゃんが憲法について井戸端会議でしゃべったらどないなるか？」条文の語訳とポイントをコテコテの大阪弁で解説しているので、大阪人にはとてもわかりやすい 1 冊。大阪といえばヒョウ柄！インパクトのある表紙も魅力的。





中学生もイロイロです

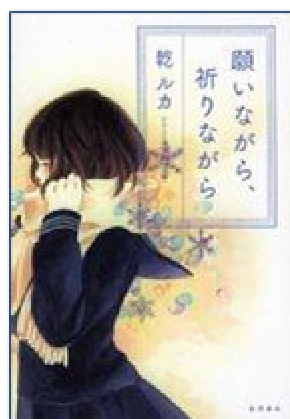


『市立第二中学校 2 年C組 10月19日月曜日』

やつき 柳月美智子／著 講談社 2010 年発行

あなたは今日、どんな1日を過ごしましたか？

髪型が決まらない瑞希、英語の音読で笑われる草太、女の子を好きになる貴大、グループからあぶれる窓華、先輩に失恋する優美…。同じ教室で過ごす2年C組の面々が、10月19日のその時その時を、それぞれの視点から語ります。どこにでもありそうな、でも、そこにしかない中学生の大切な1日です。



『願いながら、祈りながら』

いぬい 乾 ルカ／著 徳間書店 2014 年発行

北海道の片隅にある中学校の分校には、全校生徒がたった5人。生徒たちは、みんなそれぞれ心の中に悩みをかかえている。自分にはとてつもない、特別な存在でありたいと願うあまり、靈感があると思ひこむようになった少女や、すぐばれるうそを平気でつく少年。そんな5人が、1年間を一緒に過ごすうち、お互いを理解し成長していく。



『なりたて中学生 初級編』

ひこ・田中／著 講談社 2015 年発行

オレと菱田と小谷の3人は、もうすぐ土矢小学校を卒業して、土矢中学校に入学するはずだった。ところがオレの家が引っ越して、オレだけ瀬谷中学校へ行くことに。そして入学式、同級生はみんな知らない顔。いや違う。そこにはオレたちとしょっちゅう喧嘩していた南谷小学校の後藤の顔が。



『トトの勇気』

アンナ・ガヴァルダ／作 藤本 泉／訳 鈴木出版 2006 年発行

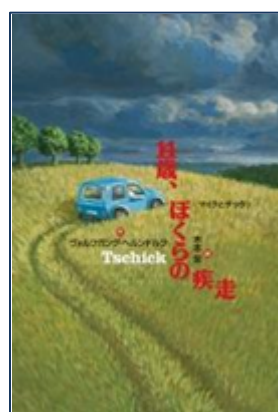
僕はトト、13 歳。どうしても勉強が頭に入らず2度も落第したので、まだ小学生。だから学校がこの世でいちばん嫌い。両親はいつも僕のことでもめている。ものづくりには興味があるんだけど、こんな僕を理解してくれる人はレオンおじいちゃんだけ。でも、おじいちゃんが意識不明の重体で入院した。僕の人生に希望はあるのかな。



『ザ・ワースト中学生 人生で最悪の日々』

ジェームズ・パターソン／クリス・テベッツ／作
たからしげる／訳 ローラ・パーク／絵
ポプラ社 2012 年発行

レイフの中学校生活が始まった。教室に足を踏み入れたとたんから最悪だ。配られた「校則集」を見て、彼は、ひらめいた。幸せな学校生活を送るために、「枠にとらわれず」生きることを。さて、レイフのはちゃめちゃな学校生活とは。たくさんの絵と、レイフの告白で語られる物語。「本なんてめんどくせ」っていう人におすすめ！



『14 歳、ぼくらの疾走 —マイクとチック—』

ヴォルフガング・ヘルンドルフ／作 木本 栄／訳 小峰書店 2013 年発行

あの子の誕生日会にはクラスメイト全員が呼ばれた。たった2人を除いて。マイク、14歳、友達のいないつまらないやつ。チック、14歳、最近ロシアから転校してきた不良っぽくて近づきがたいやつ。夏、2人は盗んだラダ（自動車）に乗って旅に出る。いろんな町の人に出会いながら、チックの親戚がいるという“遙かに遠い場所”を目指して。



『国境のない生き方 —私をつかった本と旅—』

ヤマザキマリ／著 小学館 2015 年発行

自分の生き方の根っここの部分を作ったもの、それは14歳の時に経験したヨーロッパへの1人旅と読書だった。高校生の時にはイタリアの美術学校へ留学。貧乏生活の中で現地の芸術家たちと交流し、その影響で読書にも没頭する刺激的な日々を送った。人気マンガ『テルマエ・ロマエ』の作者が語る、世界を舞台にした波瀾万丈の青春記。



『カフェ・デ・キリコ』

佐藤まどか／著 講談社 2013 年発行

突然の事故でイタリア人の父を失った、中学2年生の霧子。母と共に父の故郷イタリアのミラノに移住し、カフェを始めることになりました。メニューづくりや、現地の学校に編入するための猛勉強で忙しい中で出会ったのは、隣人バジリコ兄弟でした。複雑な家庭環境で育った彼らと交流するうち、霧子は「家族とは何か」について考え始めます。

品質保証

どれを読んでもおもしろい！

賞味期限はありません！



『雲をつかむ少女』

藤野恵美^{めぐみ}／著 講談社 2015年発行

スマートフォンのSNSで友達とつながることを楽しんでいたある日、アプリで見たシリア内戦のニュース映像に衝撃を受ける結衣。音楽一家に生まれたことに苦しみ、動画を配信して、自分の居場所を見つけようとしたキクコ。

それぞれがインターネットと関わる中で悩みながら、答えを導き出していく8つのショート・ストーリー。



『生き抜くための整体—カラダとココロのゆるめ方』

片山洋次郎／著 河出書房新社 2014年発行

整体とは、大きくとらえると、身体の不調を取り気持ちよくすること。深く気持ちのいい呼吸ができるようにすることです。何気なくしているあくびやまばたきも、身体をリラックスさせるための「自己整体」。固まった筋肉が血流を悪くして、身体から心の不調を生むこともあるのです。「ほぐす体操」も参考にリラックスしてみよう。

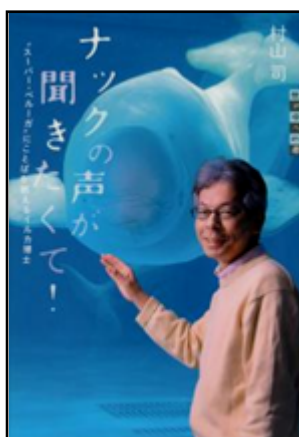
『思い出をレスキューせよ！』

“記憶をつなぐ” 被災地の紙本・書籍保存修復士』

ほりこめ
堀米 薫／著 くもん出版 2014 年発行

子どものころからのあこがれだったイギリスに渡り、「紙本・書籍保存修復士」となった金野聡子^{きんのさとこ}さん。彼女は、東日本大震災をきっかけに、故郷の岩手県大船渡市^{おおふなとし}で津波に流された写真や賞状・本の修理を行うボランティアに取り組むことになりました。

紙がもつ「記憶をつなぐ力」に魅せられた、金野さんの紙への温かい思いが伝わってきます。



『ナックの声が聞きたくて！』

“スーパー・ベルーガ” にことばを教えるイルカ博士』

村山 司／著 講談社 2014 年発行

村山博士は高校生の時、イルカの映画を見て「よし、将来はイルカと話をするんだ！」と決意しました。大学卒業後は白イルカのベルーガを相棒に、イルカの知能を解明し、言葉を教えていくこととなりました。夢の実現のために研究を始めて、もう 20 年もの月日が流れました。さて博士はイルカと話ができるようになったのでしょうか？



『アイスプラネット』

椎名 誠／著 講談社 2014 年発行

ぼくの家には「いそうろう」する叔父^{おじ}さんがいる。あだ名は「ぐうちゃん」。世界のあちこちで仕事をして、時々日本に帰ってくるぐうちゃんと話すのはとても面白い。「アナコンダという蛇を長さを 1 km にしてみると、痛みを感じるのにやたら時間がかかる」とか「地球が直径 1m だとしたら富士山は 0.3mm になるよ」とか、とんでもないスケールにいつも驚かされる。ぐうちゃんが言う「不思議頭」や「やわらか頭」を、ぼくも持てるようになるだろうか？





『かぐや姫のおとうと』

ひろせひさこ 丹じようこ
広瀬寿子／作 丹地陽子／絵 国土社 2015年発行

かぐや姫の物語には、まだ語られていない話があった。

ある日、少年、想は竹林でいささ丸と名のるふしぎな少年にであう。竹編みがとても上手な彼は、自分のことを「かぐや姫のおとうと」だといい、竹編みの技術も1200年前に学んだという。

過去と現代がつながる、かぐや姫の話の裏にあった家族の絆と愛の物語。



『仮面の街』

ウィリアム・アレグザンダー／著 斎藤倫子／訳 橋 賢竜／装画
東京創元社 2015年発行

立派な時計塔が建つ街に住む少年ロウニーは、芝居を上演するゴブリンの一座に出会う。彼らは行方不明のロウニーの兄、ロウワンを知っているらしい。ロウニーは兄を探すため、養い親で魔女のグラバの手を逃れ、一座とともに旅に出る。

魔女や機械じかけの奇妙な人々が住む街の物語。姉妹編の『影なき者の歌』もどうぞ。



箕面市立図書館ホームページアドレス

<http://www.city.minoh.lg.jp/library/index.html>

編集・発行：箕面市立図書館 箕面市立小・中学校図書館

問い合わせ先：箕面市立中央図書館

TEL 072-722-4580

FAX 072-724-9697

発行日：平成28年（2016年）1月

～編集後記～

大阪出身の作家特集はどうでしたか？読みたい本がみつかったら、図書館に来てください。お気に入りの1冊に出会えますように。